



ゆめに向かう『やる気』ゆめをかなえる『本気』何度でもやり直す『根気』

輝け！口石っ子 佐々町立口石小学校 学校便り

令和4年9月1日 41号 文責 校長 岩下裕之介

8月26日から、2学期が始まりました。静かだった学校も子どもたちの元気な声で賑やかになり、子どもがいてこそこの学校ということを改めて認識したところです。夏季休業中、幸いにも大きな事故やけが等もなく、元気に夏休みを過ごすことができましたようでうれしく思います。2学期も、子どもたちが安全に、健康に、そして明るく学校生活を送ることができるように、職員一同、全力をあげて指導にあたっていきますので、1学期同様、温かいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査結果

全国の6年生を対象に、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果と、長崎県の5年生を対象に実施した長崎県学力調査の結果についてお知らせします。

○ 6年生 全国学力・学習状況調査の結果

	国語	算数	理科
長崎県	64	62	62
全国	66	63	63
本校	全国平均より上回っている。	全国平均より上回っている。	全国平均より上回っている。

もう少し詳しく見ていきます。

- 〈国語〉・学習指導要領の領域別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」で全国平均を上回っている。「読むこと」において下回っている。
- 〈算数〉・領域別に見ると、「数と計算」「図形」「変化と関係」で全国平均を上回っている。「データの活用」において下回っている。
- 〈理科〉・領域別に見ると、「エネルギー」「生命」「地球」で全国平均を上回っている。「粒子」において下回っている。
- 〈学習状況調査〉
 - ・自己有用感は全国平均を上回っている。
 - ・人が困っている時、進んで助けようとする児童が多い。
 - ・ICT機器を学習に役立てようとする児童が多い。
 - ・自分の考えを深めたり、広げたりする力が弱い。
 - ・生活習慣（朝食、メディアの時間など）、学習習慣は全国平均を下回る。
- 〈考察〉
 - ・国語、算数、理科で全国平均を上回っていることから、日々の授業で確実に学力が身に付けられたと言える。一方で、正答数で全国平均を下回る人数が少なくはないことから、卒業に向けて基礎学力を高めていく必要がある。
 - ・国語では、「書くこと」の正答率が高くなっている反面、「読むこと」に課題がある。複数の叙述や描写を基に登場人物の気持ちや相互関係を捉え、物語全体から伝わってくることを考える力や、表現の効果に着目して読む力を育てていきたい。
 - ・算数では、5年生同様、記述式の問題で全国平均を上回っていることから、日頃の授業等を通して、自分の考えを筋道立てて書いたり、根拠を分かりやすく記したりする力を身に付けてきていると言える。領域別では、「データの活用」に力を入れて学力の底上げを図りたい。統計データの特徴を読み取る時に、読解力に関する児童のつまづきを意識して授業を展開したり、グラフから捉えた特徴や考察したことを、根拠を明確にして説明させたりする指導に力を入れていきたい。
 - ・理科では、「生命」の領域において正答率が高い反面、「粒子」や「エネルギー」

の領域で課題がある。また、短答式や記述式の問題において、正答率が低かったり、無回答率が高かったりしている。器具や現象の名称についての知識を十分に身に付けさせることはもちろん、実験を基に予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えの比較を通して、自分の考えを見直したりしながら多面的に考えるといった考え方を働かせて考察を行い、問題を解決できるようにすることの重要性について意識して指導していきたい。

- ・生活習慣や学習習慣については、家庭との連携が欠かせない。生活習慣カレンダーや家庭学習がんばり週間などの取組、学級・学年通信での啓発を継続していきたい。

○ 5年生 長崎県学力調査の結果

	国 語	算 数
長 崎 県	6 5	6 1
本 校	県平均を下回っている。	県平均を下回っている。

もう少し詳しく見ていきます。

- 〈国語〉・領域別に見ると、「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が、県平均を下回っている。
- 〈算数〉・領域別に見ると、「数と計算」「測定」が、県平均を上回っている。しかし、「図形」「変化と関係」「データの活用」は、県平均を下回っている。
- 〈考察〉・国語では、漢字を書くことについては、県平均を上回っている。しかし、条件作文の問題の正答率が低いことから、条件や題意に沿った文を書く力を身に付けさせたい。そのため、考えや理由、事例などの関係を明確にしながら読むことや、主語や述語を落とさずに書くことを意識できるようにしていきたい。
- ・算数では、記述式の問題で県平均を上回っていることから、日頃の授業等を通して、自分の考えを筋道立てて書いたり、根拠を分かりやすく記したりする力を身に付けてきていると言える。また、領域別では、「変化と関係」「データの活用」で正答率の低さが目立つことから、数量の関係を絵や図に表す活動や図と式を関連付けて立式の根拠や解決の仕方を説明し合う活動を学年に応じて系統的、継続的に行っていきたい。

本校におきましては、今回の調査結果を、6年生、5年生のみの課題としてではなく、本校で6年間、あるいは5年間、学習してきた児童の姿として「学校全体の課題」とであると受けとめ、今後全学年を通して改善を進めていきたいと考えています。今回の結果をもとに、授業において指導方法を工夫することや、よりきめ細かく家庭・地域と一体となり取り組んでいくことを本校の課題として、引き続き今後も教育改善を図っていきます。保護者・地域の皆様には、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

なお、今回の調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

活躍する子供たちの紹介

第36回 九州小学生新体操長崎県予選会 団体 優勝 5年

第6回 佐世保地区小学生バトミントン選手権大会 優勝 2年

第44回 佐々町少年スポーツ大会

ソフトボール 優勝 口石小ソフトボール部

テコンドー 団体 準優勝 6年 3年

個人 第三位 6年

